

北名古屋の国際交流・・・

ばづくり、ひとづくり、ちいきづくり。



「市民が主役」の国際交流イベント アジアフェスティバル

「アジアを観て、アジアを識り、アジアを食す」をテーマに、平成26年2月16日（日）、北名古屋市文化勤労会館を会場にして、約750人の市民の皆さんの参加を得て、開催しました。今年は、悠久の時間が育んだ文化と伝統と、複雑な価値が混在するインドを取り上げました。もう一つのデイトプなアジアを身近に感ずることができました。

「アジアフェスティバル」は、毎年2月に開催する「市民が主役」の国際交流イベントとして地域に根づかせたいと考えております。

●アジアを観て

会場1階、小ホールではユキエ・インディアン・ダンス・カンパニー・サンパティの皆さんによる、クリシュナ神への想いを艶やかな衣装で官能的に踊るオディッシュダンス（東インド古典舞踊）のパフォーマンス。そして、インド映画の大勢で歌い踊るシーンとして大ブレイク中のボリウッドダンスを市民の皆さんも踊りの輪に加わり楽しみました。また、ジャガナト・レコーズ・インディアン・ミュージック・プロジェクトの皆さんによる、シタール

などの煌めく音色のインド楽器の演奏に魅了されました。
ロビーでは、「協会活動の一年のあゆみ」を写真パネルで回顧しました。多岐にわたる協会の国際交流活動を紹介することができました。



●アジアを識り

会場1階ロビーに、「フェアトレードとは何か？」をテーマに、シアバターやフェアトレード物産の販売コーナーを設けました。地球規模で格差が広がるなかで、開発途上国の地域づくりに貢献するフェアトレード運動への取り組みを深く考えることができました。

また、インド、インドネシア、キリギス、ブータン、ベトナム、マレーシャル諸島、タイ、中国などの民族衣装を試着し、写真を撮り、記念の缶バッジづくりに挑戦するなど、大変好評でした。

2階視聴覚室では、映画ビデオを2本上映しました。ミュージカル、アクション、ロマンス、コメディなど、あらゆる要素がごちゃ混ぜになったインド娯楽映画の王道、「ムトゥ踊るマハラジャ」と、2001年ベネチア国際映画祭金獅子賞を受賞した「モンスーン・ウェディング」です。インドへの理解を深める良い機会となりました。

●アジアを食す

今年のアジアンフードコーナーは、インド料理です。インドハラル料理店「メナク・ハラル・フーズ」を、2階にオープンしました。メニューは、健康に良いチキン、ヤサイ、マメのインドカレーと、サモサ（インド風コロッケ）の4品です。会館にインドカレーのスパイスの香りが溢れ、食欲をそそりました。私たちには、ちょっと新鮮な本格的なインドカレーを堪能できました。

また、アジアンカフェも開設しました。フェアトレード運動に連帯して、東ティモールの有機栽培コーヒーや有機栽培紅茶なども味わい、アジアンテイスト溢れる1日カフェとなりました。

北名古屋地域ブランドプロジェクト イメージキャラクター決まる

《北名古屋地域ブランドプロジェクト》イメージキャラクターの人気アンケートを実施した結果、一番人気の高かった「いちじく君(仮)」をイメージキャラクターに決定しました。(左図を参照)

アンケートの結果は、次の通りです。ご協力いただいた市民の皆様は、総数620名。最高点は、258名の皆様から、ご支持いただきました。なお、次点は、214名。第3位は、145名。その他、3名。ご協力ありがとうございました。



●北名古屋地域ブランドプロジェクトとは？

北名古屋市国際交流協会が、市民手づくりで、推進している国際交流をツールとした北名古屋地域ブランドづくりのことです。

協会事業の大きな柱の1つである「国際交流を活用した地域づくり」を担うプロジェクトです。協会内に設置する運営企画会議地域おこし委員会がア

イデア出しから、企画運営、実施まで市民参加で取り組んでいます。
今後は、このイメージキャラクターを活用して、プロジェクトを推進してまいります。

●第1号北名古屋地域おこし産品

北名古屋地域おこし産品第1号として、「北名古屋特産！いちじく酵母入りイタリアン400Pドレッシング」を「ふれあいフェスタ2013」や「第2回アジアフェスティバル」で、特別販売しました。

今後とも、北名古屋地域おこし産品は、協会が実施するイベントのなかで、開発提案してまいります。



アジアを識るシリーズ！
演題 暴力の応酬で進まぬ和平
――パレスチナの現状――

協会では、世界に突き刺さる棘、パレスチナ紛争への国際理解を深めるため、10月19日(土)北名古屋 市総合福祉センターもえの丘、ボランティアルームで、中日懇話会事務局長小塚哲司氏をお迎えして、講演会を開催しました。以下は、その概要です。

第三次中東戦争後、一つの大きな動きが現れます。エジプトには戦後、スエズ運河を国有化した偉大なナセル大統領がいましたが、急死し、副大統領だったサダトが大統領になります。そのサダトが突然イスラエルを訪問し、エジプトはイスラエルと平和条約を結ぶ意思があることを言明しました。

第三次中東戦争でパレスチナは全領土をイスラエルに占領された後で、ある意味裏切り行為でした。しかし、これがその後の和平への第一歩で、アメリカが動きまわります。カーター大統領がサダト大統領、イスラエルのベギン首相を、米国の大統領別荘のキャンプ・デービッドに招き、1978年9月17日「デービッド合意」を結ばせ、1979年にエジプト、イスラエルが平和条約を結んだのです。

その結果、裏切り行為をしたエジプトはアラブ連盟(各国でつくるアラブ全体の組織)から約10年間除名されてしまいました。

しかし本格的な和平は訪れない。パレスチナの独立に絶望した若者、子供達が、占領地にいるイスラエル兵士に石をぶつけるようになりまし。イスラエル軍はゴムの玉で反撃しそれが1年くらい続きました。この「インティファダ(民衆蜂起)」を世界のメディアが取り上げ、イスラエルも批判を浴びました。そこでパレスチナ解放機構(PLO)の指導部は1988年に、これまで決して認めてこなかった「イスラエルの生存権」を認め、代わりに「パレスチナ国家」をつくと宣言し、国民・若者に希望を持たせました。しかし、そうした「ミニ・パレスチナ構想」は、パレスチナの土地を奪ったイスラエルを地中海に武力で追い落とし、パレスチナすべてを取り返す当初の戦略からの転換で、それに反発するグループもいました。

次の大きな動きは「湾岸戦争」(1990～91年)の後。

アメリカがマドリードで和平会議を開いて、湾岸戦争で共同歩調を取ったエジプト、サウジ、シリアとともに、イスラエルに対し、「平和と交換に領土(返還)」を」と呼びかけ、2年後に「暫定自治協定」に着手する「オスロ合意」ができました。

暫定自治とは、イスラエルが占領地を少しずつ返し、そのパレスチナ自治体を増やしていき、ゆくゆくは「パレスチナ国家」を実現させていくというものです。調印したアラファト議長とラビン首相にノーベル平和賞が贈られましたが、譲歩したラビンはイスラエルの右翼青年に暗殺されてしまいました。

暫定自治という新たな和平の過程が動き始めたが、イスラエルのシャロン(後の首相)が警官を連れて聖地エルサレムのイスラム地区に乗り込む大事件が起きました。「これも神に約束された土地で絶対返さない」と言わんばかりです。エルサレムにはユダヤ教、キリスト教、イスラム教という三大宗教が集まっています。しかしその宗教の礼拝場区域には、立ち入らないという不文律がありますが、シャロンはそれを破り、イスラム教徒との決定的な溝を作ってしまった。

2003年4月には、米国、EU、国連、ロシアからなる和平構想も作られたがうまく機能しません。それどころかイスラエルはパレスチナ側が将来、国家を樹立する占領地に、ユダヤ人の住宅を造り続け、入植地に沿って「分離壁」まで建設しました。テロリストの侵略を防ぐための理由ですが、結局は占領地を返す気がないのです。



そんな状況から、イスラエルの存在を認めないパレスチナ強硬派の「ハマス」が台頭してきます。ハマスは貧しい家族のために病院や学校をつくって、無料で学校に入れたり無料の医療を施し、支持者が多かった。こうしてPLOのアラファト議長死亡後、引き継いだアッバス議長時代の総選挙で「ハマス政権」が誕生します。しかし過激な政権を米国やイスラエルは承認しませんでした。

パレスチナ内部では、自治政府のアッバス議長とハマス政権との対立が高まり、ハマスはアッバス議長派の軍隊を押しつけて、占領下にあるヨルダン川西岸とガザのうち、ガザを制圧してしまいました。これにアッバス議長が怒り、パレスチナの首相を解任させてしまいます。その結果、議長がいるヨルダン川西岸とハマスのいるガザとで内部分裂してしまっただけです。

そんなパレスチナ和平が遠のいた時に、米国内にオバマ大統領が登場し、「イスラムとの対話」を宣言しました。オバマの実父はイスラム・ケニアの大富豪の息子で、ハワイ大学に留学します。大学で知り会ったアメリカ人女性と結婚してオバマが生まれます。実父はハーバードに留学したため離婚となり、実母は再婚をしますが、オバマはキリスト教徒だけれども、実父の血をうけているのでイスラムの血もあるわけですね。イスラムとキリストの共存という気持ちがあったのだと思います。

そこで2010年、3年ぶりに中東和平交渉に踏み出しましたが、その直後、イスラエル政府はパレスチナ側が将来の国家の首都とする東エルサレムに、13000戸のイスラエル人住宅の建設を承認したのです。そんな姿勢では和平が成り立つ訳がありません。イスラエルで世論調査をすると、「占領地を返還する必要がある」と答える国民が60%を超えます。その理由は「神に約束された土地」だからという旧約聖書の世界に固執しているからです。

「シードッグ」という言葉があります。「羊の犬」とアメリカは中東和平では言いいます。羊の群れを守っている犬をシードッグと言うのです。アメリカは中東和平では、お互いが変な方向に行かないよう中立的に見守り合うように、シードッグ役だと言われるのです。本来はイスラエルとの関係があるのですが、中東和平を調整していくにはどちらにも味方をしないで、誘導をしていくシードッグ役を求められているのにアメリカは最後にはイスラエルの味方になってしまふ。中東和平、パレスチナ和平は容易には訪れません。

私たちの国際交流¹⁶

目を見て話そう

北名古屋市国際交流協会理事 辻本隆子

May I help you?

と、自信をもって外国人に声をかけ、外国人の役に立ちたいと思っているのです。只今、英語の修行中。本番には、まだ時間がかかりそうです。
元はといえば、随分前に、アメリカで生活したとき、その人たちに親切にして頂きました。その恩返しのもりで、日本へやってくる人に何かお手伝いできないだろうか、と思いました。

世界がまるごと長久手にやってきた万博のボランティアをさせていただきました。

北名古屋市が誕生し、国際交流協会ができました。そのメンバーに加えていただきました。公園で外国の女の人と目が合ったら、にっこり微笑んでくれました。思わず Hello と声をかけていました。それから友達になりました。韓国の務安へ行きました。韓国語はできませんが、ちよつぱり英語で話しました。とたんに、相手の目が光りました。そこから、少しだけ話してきました。

協会の英語講座の先生、コロンビア人の A さんに言われました。目を見て話さないかと。

英語に自信がもてないので、どうしても伏し目がちになってしまおうようです。これは、外国人から見れば大変失礼なこと知りませんでした。これからは、こういうことにも気をつけながら、世界中の誰とでも、仲良くして、そこから国際交流が始まり世界平和へのきつかけになっていければいいなと考えています。

外国語講座を開講します。

韓国語基礎講座

・と き 平成26年5月から年22回
毎月第1、第3火曜日
午後6時45分～8時45分

・と き 北名古屋市健康ドーム研修室

・と き 平成26年5月から年22回
毎月第1、第3木曜日
午後6時45分～8時45分

・と き 北名古屋市健康ドーム研修室

・と き 平成26年5月から年22回
毎月第1、第3木曜日
午後2時～4時

・と き 北名古屋市健康ドーム研修室

・と き 平成26年5月から年22回
毎月第2、第4木曜日
午後6時45分～8時45分

・と き 北名古屋市健康ドーム会議室

・と き 平成26年5月から年22回
毎月第2、第4金曜日
午前9時45分～11時45分

・と き 北名古屋市健康ドーム研修室

・と き 市内在住・在勤の方

・と き 一般 年14000円
会員 年11000円

・と き 各コースとも30名(先着順)
平成26年4月1日から受講料を添えて、協会事務局へ申し込みください。

・と き 平成26年4月1日から受講料を添えて、協会事務局へ申し込みください。

・と き 平成26年4月1日以下の場合、開講を見合わせる場合がありますので、ご了承ください。

通常総会開催

協会では、通常総会を開催します。

・と き 平成26年4月12日(土) 午前10時から
北名古屋市文化勤労会館小ホール

・と き 平成25年度事業報告・決算報告
平成26年度事業計画(案)・事業予算(案)

協会の総会は協会会員の方しか参加できません。なお、会員の皆様には、事前に開催通知をご送付させていただきます。

総会記念バリ舞踊公演会

通常総会終了後、国際理解を深めるため、《アジアダンスの華》インドネシア・バリ舞踊公演会を開催します。

・と き 平成26年4月12日(土) 午前11時から
開始時間を変更する場合がありますので、あらかじめ、ご了承ください。

・と き 北名古屋市文化勤労会館小ホール
平成26年4月1日より、市役所西庁舎4階協会事務局で配布します。

・と き 平成26年4月1日より、市役所西庁舎4階協会事務局で配布します。

各種申し込み、お問い合わせ等は、左記までお願いいたします。

北名古屋市国際交流協会

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15
北名古屋市役所(西庁舎内4階)
電話 0568-1-2211111 内線2400
ファックス 0568-1-2511800
Eメール info@kitanagoya-kia.jp
ホームページ http://www.kitanagoya-kia.jp